アプティグローバル

自慢のメカニック特集

インドネシアの特定技能人材

現場で活躍できる人材の育成を

自動車業界向けに特定技能人材の紹介を手掛けるアプティグローバル（井田秀明代表、東京都渋谷区）。18歳人口の減少などを背景に国内で整備人材の採用が難しくなる中、インドネシアで日本語やマナー、自動車整備、板金塗装の基礎などを教育し、特定技能人材として国内の整備工場に紹介する。人材が日本で就職後も、企業や人材との定期面談、日本語教育などを実施し、安心して長く活躍できるようサポートする。井田秀明代表と北川文雅COOに話を聞いた。

―需要が急増している

井田代表「大変ありがたいことに、現在138社の企業に採用いただき、年間約500人がインドネシアから日本にきている。最初は試験的に一人だけ採用された企業に増員いただくケースも増えている。私たちが重視している『現場で活躍できる人材を育成する』の一つの結果と受け止め、今後も信頼を裏切らないサポートを続けたい」

北川COO「採用を決めるための面談も現地とオンラインを選択できるようにしているが、最近は現地面接を選択いただく企業が非常に増えている。インドネシア、そして人材に強い関心を持ち、長く一緒に働く仲間として温かく迎え入れてくれており、私たちも身が引き締まる思い」

―インドネシアは人口が増加し若者の失業率が社会課題にもなっている

北川COO「働きたくても働くことができない若者が多い。さらにインドネシアは日本車のシェアが非常に高く、アニメなどの影響もあり日本に対して非常に良い印象を持っている国といえる。私たちは、日本で働きたい人材をインドネシア全土から募り、複数回の選考を行ったうえで日本企業との面接へとつなげる。内定から入社まで日本のマナーも徹底的に指導する。インドネシア人材の就職支援と厳しい〝日本式教育〟がインドネシア政府からも高く評価され大変ありがたい。実際に人材が働く工場や研修施設などを労働省の副大臣などに視察いただき、今後は政府との連携をさらに強化していく」

―企業と人材を全方位でサポートする

井田代表「採用前から入社後のサポートまで一社完結できる仕組みを企業から評価いただいている。内定から来日までの教育期間は全寮制。授業や日常生活を通じ、人材の個性や価値観まで深く理解しているため対応も早い。今後も企業と人材に寄り添ったサポートを継続していく」

北川COO「人に愛される人材育成を重視している。そのためには、日本語レベルをさらに引き上げることも重要と考え、いつでも学べる日本語学習アプリも自社開発した。人材が安心して日本で働き続けることができるよう、サポート内容をさらに充実させていきたい」

井田秀明代表（写真左）と北川文雅COO（写真右）

福井トヨタ

エリク・セティアワンさん
マクムル・ヒダヤトゥロッさん
ムハマド・アルフィ・アル・ファリディさん
ディアズ・ビンタン・プラユダさん

お客様から信頼される整備士に

福井トヨタにはインドネシアからの特定技能人材4人を含む10人の外国籍社員が勤務する。マクムルさんとディアズさんは初めて日本で働く。一方で、アルフィさんとエリクさんは技能実習生として働いた経験がある。マクムルさんは「日本の素晴らしい品質管理を実際の工場で経験したかった」と来日の理由を話す。アルフィさんは自動車の組み立て工場で働いた経験から「このクルマが壊れたらどう直すのかという部分に興味を持った」。日本で働く理由はそれぞれ異なるものの、日本の高い自動車整備技術を学びたいという思いは同じだ。

ディアズさんとマクムルさんは武生店、アルフィさんとエリクさんはサンドーム南店で勤務する。4人はオイルやタイヤ交換、車検整備、12カ月点検などの業務にあたる。来日から9カ月ほどがたち「最近は初めて見る作業は少なくなってきた」（エリクさん）と言うものの「一人で考えて作業をすることは難しい」（アルフィさん）のが現状だ。ただディアズさんのように「昔から細かい作業は大好き。いろいろな整備ができるようになりたい」と、新しいことに挑戦する意欲は高い。

目指す整備士像は「お客さまに信頼されるプロの整備士」（マクムルさん）。将来、自分の整備工場を持つ夢を持つ人材も多く、日々技術習得に努めている。

〈プロフィル〉
エリク・セティアワン（写真左）　２０２５年11月入社。休日はジョギングやジムで汗を流す。好きな食べ物は牛丼。２００３年６月生まれ。23歳。
マクムル・ヒダヤトゥロッ（写真右）　２０２５年11月入社。休日は料理をする。好きな食べ物はツナマヨおにぎり。１９９７年５月生まれ。28歳。
ムハマド・アルフィ・アル・ファリディ（写真中央右）　２０２５年11月入社。日本のアニメが好き。好きな食べ物はお好み焼き。２００７年２月生まれ。26歳。
ディアズ・ビンタン・プラユダ（写真中央左）　２０２５年11月入社。日本語の単語帳をつねに持ち歩く。好きな食べ物はたこ焼き。２００３年８月生まれ。22歳。

ホンダカーズ中央佐賀

リフコトゥン・ナディローさん

日本語や整備技術を学ぶことが楽しい

4人兄弟の2番目だというリフコトゥン・ナディローさんは、「いつか母の料理を出すレストランを開業したい」という思いで来日した。子どものころからクルマが好きで、インドネシアでは自動車整備の専門学校で学んだ。「さらに高いレベルの技術を身に付けたい」と考え、日本で働くことを決意した。現在の業務は問診や安全点検、部品交換も含む中古車の一年点検など。「日本語も整備技術も分からないことはたくさんあるが、一つひとつ覚えることが嬉しくて楽しい」と笑顔で話す。

日本語でのコミュニケーションは「みんなが日常的に話しかけてくれるため、言っていることは分かる」という。分からない単語や言葉は先輩に聞いて記録し記憶する。「敬語や尊敬語、音読みや訓読みなど日本語は難しい」というものの、最近は〝佐賀弁〟も覚えている。

帰宅後や休日は必ず日本語の勉強や復習に費やす。また、アプティグローバルのオンライン授業や日本語能力試験（JLPT）N2を目指す授業にも参加する。「分からないことや新しいことが出てくるともっと勉強がしたくなる」と意欲的に取り組む。

当面の目標は「日本の整備技術をしっかりと学ぶこと。そのためにも今は遊びよりもお金をためて勉強したい」という。

〈プロフィル〉
リフコトゥン・ナディロー　２０２５年８月入社。好きな食べ物はうどんと寿司。サーモンやまぐろを好む。２００４年２月生まれ。22歳。

G-7・オート・サービス

ハズマン・フィリンさん
アマド・ノヴァリアントさん
リファルディ・ヌローマンさん

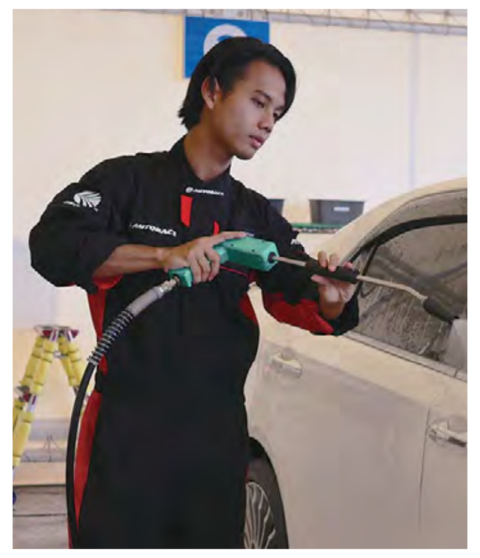
日本人の働き方、技術を学びたい

「日本人の働き方、仕事の早さや丁寧さを勉強したい」と話すリファルディさんは、子どものころから父のクルマにも興味を示すクルマ好きだ。3人の弟や妹を持つハズマンさんは「長男として家族のためにも将来のためにも整備技術を身に付け一人前になりたい」と言葉に力を込める。「自動車整備が好き」と目を輝かせるのはアマドさん。同店へ配属されてから、コーティングを学ぶようになり「分かりやすくきれいになるのが面白い」と技術習得に夢中だという。

同店敷地内では洗車コーティングも行っている。「きれいになったクルマを見たお客さまの喜ぶ顔を見ると自分も嬉しくなる」（アマドさん）という。インドネシアではコーティング需要は少しずつ高まっており、さらに伸びると見られている。「いつか日本の技術を持ち帰りたい」（ハズマンさん）と夢を語る。リファルディさんは彼らの研修を務める先輩社員の技術にほれ込み「あの技術を自分のものにしたい」と背中を追う。

同社の管理本部タレントマネジメント部森本仁人材育成担当課長は「コミュニケーションに全く問題はなく、吸収も早く素直」と述べ、段階的に車検整備や他の作業の習得へと移行するスケジュールを組み戦力化していく考えだ。

〈プロフィル〉
ハズマン・フィリン（写真右）　２０２５年11月入社。好きな食べ物はたこやき。漢字が好き。２００５年５月生まれ。21歳。
アマド・ノヴァリアント（写真左）　２０２５年11月入社。好きな食べ物はツナマヨおにぎり。関西弁好き。１９９９年11月生まれ。26歳。
リファルディ・ヌローマン（写真中央）　２０２５年11月入社。好きな食べ物はあんこのたい焼きと牛丼。２００５年11月生まれ。20歳。



新光モータース

ヘンキ・ヒダヤトさん

少しずつ自分の成長を実感できる

来日する前、インドネシアで2年ほどバイクを整備する仕事に就いていたが、「日本車が多く走っていることから日本車に興味を持ち、車のメカニズムを日本で勉強したい」と決意。日本語を猛勉強し、「明るく和気あいあいとした職場の雰囲気が自分に合っている」と感じ、新光モータースに入社した。

入社後は、先輩からマンツーマンで点検や車検整備などを学んだ。「分からないことがあれば、気軽に聞くことができ、休憩時間にも丁寧に教えてもらえる。また仕事で困っているときは先輩から声をかけてもらえるのでとても心強い」と安心して仕事に打ち込める環境のなかで、技術を習得しているという。

入社して約1年が経ち、「車の故障の原因を自分で考えて突き止め、解決したときが一番うれしい」と仕事の面白さを感じるようになり、「解決できるようになった仕事が一つずつ増えていることで自分が成長していると実感する」と話し、この仕事へのやりがいにもつながっている。

将来の夢については「整備に関わるすべての仕事をマスターし、インドネシアで整備工場を経営したい」と目を輝かせて語った。

〈プロフィル〉
ヘンキ・ヒダヤト　２０２５年９月入社。休日は富山駅前の公園を散歩する「公園の木々を見ると癒やされます」。２００２年１月生まれ。24歳。

日産サティオ秋田

チャエルル・イルヴァンさん
アアン・グストミさん

不具合を修理する過程にやりがい

チャエルルさんとアアンさんは、それぞれ異なる背景と夢を持ち、日産サティオ秋田で自動車整備士として奮闘している。

チャエルルさんは、地元の学校で3年間、自動車整備について学んだ。日産車のデザインや「スカイライン」に魅力を感じ、来日を決意した。実務は日本が初めてだが、車検や点検で不具合を探して修理する過程に大きなやりがいを感じている。将来はインドネシアで自身の整備工場やバイクショップを開くという大きな夢を描く。

チャエルルさんは「知識や技術だけでなく、人柄の面でも周囲から慕われるような整備士を目指したい」と将来像を語る。

一方、アアンさんは高校卒業後、現地の完成車工場で2年間、車両の組み立てに従事した経験を持つ。家族を養うために来日し、現在は細かな点検が求められる車検業務にやりがいを見いだしている。また、周囲と協力しながら作業を進めるチームワークにも魅力を感じている。当面の目標は、国家2級自動車整備士と特定技能2号の取得だ。

アアンさんは「日本で長く働き、一人で完結できる作業の幅を広げていきたい」と話し、さらなる技術の向上を目指す。

現在はともに資格取得に向けた勉強と現場での実践を重ねており、先輩の手厚いサポートのもと、日本の自動車整備の最前線で着実にスキルを磨いている。

〈プロフィル〉
チャエルル・イルヴァン（写真左）　２０２５年８月入社。好きなクルマはスカイライン。１９９７年10月生まれ。28歳。
アアン・グストミ（写真右）　２０２５年８月入社。大切なものは「家族」。２００２年１月生まれ。24歳。

山陰イエローハット

リズキ・ブディプラセティアさん
アフマド・ザイヌデイン・ヌリル・フダさん

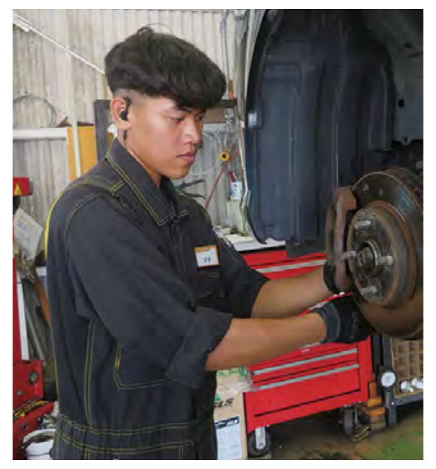
早く技術を身に付けて一人前に

2026年1月に来日したフダさん。インドネシアにいたときから日本のアニメなどを通して、日本に興味を持っていたという。リズキさんが日本に来るのは二度目。前回は技能実習生としてだった。「以前は滋賀県の琵琶湖近くで働いていた。日本の中でも地域によって気候が異なるのが面白い」と興味を示す。さらに「日本には四季があり桜や雪がとても美しい」と話す。一方で来日当初は「冬の寒さに驚いた」と振り返る。

フダさんは「日本人はとてもやさしい」と笑顔で語る。「分からない言葉やルールなど、親切に教えてくれて嬉しい」と話す。

米子淀江店で二人が担当しているのは車検整備やタイヤ・オイル交換などサービスメニュー全般、コーティングなど多岐にわたる。「分からないことがたくさんあるが、早く技術を身に付けたい」（フダさん）、「先輩がブレーキを分解しているのを見て、すごいと思った。いつかは自分もやってみたい」（リズキさん）と目を輝かせる。上田浩太郎店長は「二人とも何にでも興味を持ち、覚えようという意識が高い」と評価する。

将来の夢についてフダさんは「今はたくさんのクルマを整備して技術を学びたい」とし「いずれは国に帰ってイエローハットのような店を作りたい」という。リズキさんは「日本語、整備技術を学び、特定技能2号を取得して家族を日本に呼びたい」と夢を語る。



〈プロフィル〉
リズキ・ブディプラセティア（写真左）　２０２６年１月入社。アニメ「ワンピース」や「NARUTO」を見て日本に興味をもった。２００６年１月生まれ。26歳。
アフマド・ザイヌデイン・ヌリル・フダ（写真右）　２０２６年１月入社。好きな食べ物はラーメン。地元で「伯耆富士」と呼ばれる大山に登るのが夢。２００５年１月生まれ。20歳。

イタバシ

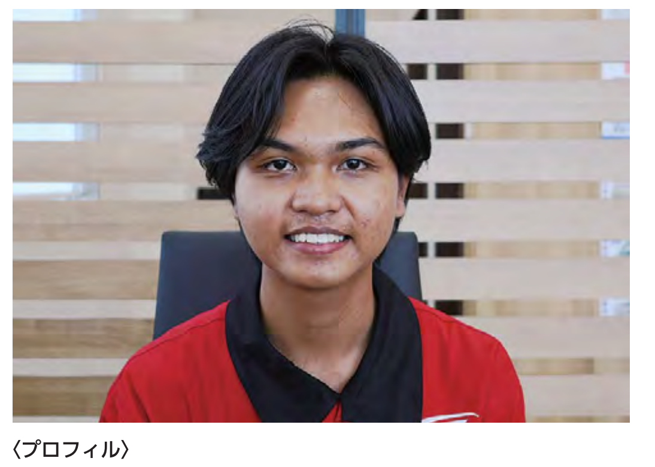
アトサル・ガトファンさん

日々新しいことに挑戦ができる喜び

入社から1年が経ち「刺激的な一年だった」と振り返るアトサルさん。入社後、約半年間は認証工場併設のガソリンスタンド（給油所）で働いた。「あの期間にたくさんのお客さまと話し、もっと日本語を勉強しなくてはいけないと思った」という。以降、毎日欠かさず日本語を勉強する時間を確保する。勉強法は教科書を読み込むほか、日常生活で分からない単語があった場合はメモをしてすぐに調べる。それでも分からない場合は、オンラインでのアプティグローバルの日本語研修時に確認するという。

インドネシアで走るクルマの多くが日本車のため、子どものころから日本車に馴染みがあった。自然と「自動車整備の仕事がしたい」と思うようになった。入社して半年後、現在も勤務するマッハ車検小山粟宮店がオープンし、配属となった。「毎日違うこと、新しいことに挑戦できて楽しい」と笑顔で語る。さらに「1カ月前にはできなかったことができるようになったときは「自分自身が成長できていると感じられる」こともモチベーション向上につながっている。「なんでも直せる整備士になりたい」と述べる。

目下の目標は3級自動車整備士資格取得だ。3級を取り、特定技能2号の在留資格を取るために整備技術、日本語の習得に励んでいる。


〈プロフィル〉
アトサル・ガトファン　２０２５年８月入社。好きな食べ物はすき家の牛丼。休日は近くの「セカスト」に洋服などを見に行く。２００６年６月生まれ。20歳。

三重三菱自動車販売

フィルダウス・アハディアンシャ・アグスティアンさん
アルディアンシャーさん

電動車に対応可能な整備士を目指す

「インドネシアには三菱自動車の車がたくさん走っている。日本の三菱ディーラーで働くことは嬉しい」と語るダウスさん。母国と比べて給与水準も高く、家族に仕送りができることも日本でメカニックになった理由という。

将来の目標は、インドネシアで自動車整備の先生になること。「今は一生懸命勉強して、自分の技術を高めたい。地元の後輩たちに日本で学んだスキルを伝えることで、周囲から頼られる人材になりたい」と話す。

アルディさんが三菱のサービスエンジニアになった理由は、ハイブリッド車（HV）やプラグインハイブリッド車（PHEV）など、電動車の整備を学ぶため。「インドネシアでも電動化は進んでいるが対応できる整備士はまだ少ない。PHEVに強い三菱自動車ならではの技術を習得し、母国で自分の整備工場を持つことが夢」と力強く語る。

来日して良かったことは、自動車整備だけでなく日本のさまざまな文化を感じられること。「休日にはお祭りに行ったり、リフレッシュしている」と、プライベートも充実しているようだ。

〈プロフィル〉
フィルダウス・アハディアンシャ・アグスティアン（写真左）　２０２５年２月入社。好きな車は三菱のピックアップトラック「トライトン」。１９９９年８月生まれ。27歳。
アルディアンシャー（写真右）　２０２５年２月入社。好きな車は「アウトランダー」。２００１年９月生まれ。25歳。

Kagawa BMW

アリア・アリムさん
ライハン・アクバル・タンリンさん

一台のクルマを自分一人で整備したい

「毎日新しいことを少しずつ教えてもらえるためワクワクする」と話すタンリンさんは、日本のアニメが好きで日本に興味を持った。車検や点検サポートを任されており、「早く1台のクルマを自分一人で作業できるようになりたい」と話す。

アリアさんは「日本人の真面目さや勤勉さを学びたい」と話す。オイル交換や車検などを日々担当している。「初めての作業はいつも緊張する」が先輩社員の手厚いサポートもあり「少しずつ慣れてきた」と感じている。

店舗の先輩社員らも彼らが日本や職場に早くなじめるようにサポートする。この夏は金比羅山や地元の花火大会にも行った。「花火がとても大きく美しかった」と二人は口をそろえる。

日本語の勉強方法はそれぞれ異なる。タンリンさんは「アニメを見ることが日本語の勉強になっている」。アニメで知った言葉を友達と会った時に使い、アウトプットをしながら学ぶ。アリアさんは帰宅後に毎日2時間日本語を学ぶ。教科書や動画、先輩社員と日報代わりの日記のやり取りを通して日本語習得に励む。好きな漢字は「成功」だ。

アリアさんの夢は自動車整備士資格を取得すること。タンリンさんは「新しいことをとにかくたくさん経験したい」と好奇心があふれている。

〈プロフィル〉
アリア・アリム（写真右）　２０２５年12月入社。休日は散歩や料理をして過ごす。２００５年７月生まれ。21歳
ライハン・アクバル・タンリン（写真左）　２０２５年12月入社。料理が好きで唐揚げや牛丼などを作る。２００７年１月生まれ。19歳。

ヒューベストオート

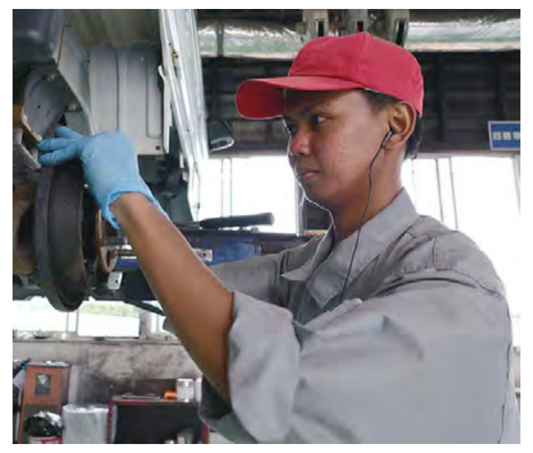
サルウォ・エディ・ウィボウォさん

少しずつ一人でできる作業が増えてきた

ヒューベストオートが展開する車検の速太郎唐津店で働くサルウォ・エディ・ウィボウォさんは「若いうちに親元を離れて自立したかった」と来日理由の一つを語る。日本を選んだ理由は、日本のアニメを子どものころから見ていてなじみがあったことと、日本の自動車整備技術を学びたかったこと、そして、日本の規律正しさに魅力を感じたからだった。

現在は、点検・整備業務の中でもブレーキ関連の作業を担当する機会が増えている。「ブレーキオイルの交換やクリーニングなど、できる作業が増えてきた」と笑顔をみせる。インドネシアでは専門学校で自動車整備の基礎を学んでいたものの、日本での実務は初めてで、入社当初は慣れない作業に戸惑うこともあったという。現在は先輩社員から指導を受けながら経験を重ね、「次に必要な作業を自分で考えて動けるようになってきたことが嬉しい」と成長を実感している。

目下の目標は日本語能力試験（JLPT）N3の取得だ。将来的には特定技能2号への移行も見据えて、日本語能力と整備技術の向上に力を注ぐ。「日本語は難しい」と本人は言うものの、先輩社員らは「コミュニケーション面で困ることはほとんどなくなってきた」と評価する。技術習得にも意欲的で「どんなクルマでも整備できるような整備士になりたい」とし、少しでも手が空くと先輩社員の作業を見て学んでいる。


イリアンシャーさん

〈プロフィル〉
サルウォ・エディ・ウィボウォさん　２０２５年９月入社。休日は福岡に遊びにいくこともある。好きな食べ物はうどん。２００６年３月生まれ。20歳。